

2020年度 事業計画書

女性の自立と自活



学校法人 共立女子学園

[目 次]

1. 2020年度事業計画について	1
I. 共立女子大学・短期大学	1
I-1. 学生確保	1
I-2. 教育の質	3
I-3. 学生生活	6
I-4. 学修支援・授業支援	8
I-5. 就業力	9
I-6. 地域連携	10
I-7. 教学マネジメント	12
II. 共立女子中学高等学校	14
II-1. 生徒確保	14
II-2. 教育の質	15
II-3. 教育力	16
II-4. 進路	17
II-5. 管理運営	18
III. 共立女子第二中学校高等学校	19
III-1. 生徒確保	19
III-2. 教育の質	20
III-3. 教育力	21
III-4. 進路	22
III-5. 管理運営	23
IV. 共立大日坂幼稚園	24
IV-1. 園児確保	24
IV-2. 教育の質	25
IV-3. 教育力	25
IV-4. 保護者との連携・協力	26
IV-5. 管理運営	26
V. 共立女子学園	27
V-1. 財政	27
V-2. 人事	28
V-3. 施設設備	29
V-4. 桜友会・後援会・地域等との連携	30
2. 2020年度予算の概要	31
(1) 2020年度予算編成方針	31
(2) 資金収支予算(表1)	31
(3) 事業活動収支予算(表2)	31
(4) 中期計画予算(表3)	31

1. 2020 年度 事業計画について

I. 共立女子大学・短期大学

I-1. 学生確保

目標

アドミッション・ポリシーに則して、戦略的な広報や入試制度改革等を通じて、志願者を増加させる。

主となる委員会・会議 全学アドミッション委員会 全学広報委員会	主となる事務局 入試事務室、総合企画室
--	-------------------------------

2020 年度 事業計画

【評価指標①】 共立女子大学・短期大学について、入学定員を確保する。

2020 年度 到達目標	2020 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2021 年度入試は、すべての学部・科において、適正な入学定員管理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試制度ごとの入学定員数管理を厳守するとともに、偏差値を上げるため、志願者数・受験者数を増やし、可否のボーダーラインを上げる。共学の大学との比較を意識し、活動的で躍動感のある広報を展開する。
<ul style="list-style-type: none"> 「進学ブランド調査」(リクルート) を指標の一つとして設定し、立地の良さを示す「交通の便が良い」「卒業後に社会で活躍できる」については、競合女子大学よりも高い数値の獲得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 競合校と比較した優位性(立地の良さ)をアピールする広報を徹底するとともに、高校生の行動特性や各種情報の入手・拡散ルートを把握し、広報活動を戦略的に展開する。
<ul style="list-style-type: none"> 学部・科ごとのアドミッション・ポリシーの認知度を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> オフィシャルガイドの学部・科のトビラページを入学から卒業までの概要が分かるように改善する。アドミッション・ポリシーを掲載し、認知をはかる。

【評価指標②】 一般入試の延べ志願者数で、共立女子大学は 7,000 人以上、共立女子短期大学は 600 人以上を目標にする。

2020 年度 到達目標	2020 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 一般入試の延べ志願者数で、共立女子大学は 7,200 人以上、共立女子短期大学は 600 人以上を目標にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報媒体の費用対効果を検証し、媒体の出稿を精査する。効果の高い広報媒体に集中して接触者数 45,000 人(9 月末日時点)を目指す。特に偏差値の高い層の高校 1・2 年に共立女子大学・短期大学での学びを訴求し、早期に志願度を醸成する。ビジネス学部は 2 年目の重要な時期であるため、初年度以上の展開ができるよう精査する。進学先検討の早期化を考慮し、高校 1・2 年生を対象の広報を強化する。

【評価指標③】 2021 年度入試からの新基準に沿った新入試制度を実施する。

2020 年度 到達目標	2020 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 新基準に沿った 2021 年度入試を着実に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2021 年度入試に向けたシステム改修および入試実施体制についての見直しを行い、新入試を着実に実施できる体制を整える。
<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領のもと実施する 2025 年度入試における教科・科目についてアドミッション委員会にて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領のもと実施する入試制度における教科・科目の在り方についてアドミッション委員会で検討を行う。

【評価指標④】 アドミッション・オフィサー（専任職員）が、入試・学生募集に参画する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・総合型選抜において、全学部・科の面接にアドミッション・オフィサーが参画する。	・面接担当を行うアドミッション・オフィサーを養成する。
・教員がアドミッション・オフィサーとして入試に参画する。	・教員の入試への関与方法について役割を検討し任命する。

【評価指標⑤】 入学者選抜において、多面的・総合的に評価を行う組織（アドミッション・オフィス）の設置を検討する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・2021年度入試の実施からアドミッション・センター(仮称)が機能する体制を構築する。	・他大学の情報を収集し、本学のアドミッション・センターとして必要な機能を明確にする。

【評価指標⑥】 併設校との連携を強化し併設校からの入学率の増加を目標にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・2021年度入学率は、共立女子高等学校 20%(64人/322人)、共立女子第二高等学校 47%(68人/145人)を目指す。	・共立女子中学高等学校および共立女子第二中学校高等学校のオープンキャンパスでオフィシャルガイドを配布するとともに、2019年度に引き続き、共立女子中学高等学校の高校3年生対象の大学説明会で本学の優位性を説明する。

【評価指標⑦】 共立女子大学大学院について、入学定員の確保を目標にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・2020年度入学者数 38人を目指す。	・2019年度実績の案件を実施媒体に加え、年間を通じてWEBで検索できる媒体に掲出する（リクルート：スタディーサプリ大学院）とともに、社会人向け説明会や在学生向け説明会を実施する。

I-2. 教育の質

目標

カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、学生の付加価値を最大化させる。

<p>主となる委員会・会議</p> <p>全学教学改革推進委員会</p> <p>ビジネス学部（仮称）設置準備委員会</p> <p>全学FD委員会</p>	<p>主となる事務局</p> <p>教務課、図書課、総合企画室</p>
--	-------------------------------------

2020年度 事業計画

(1) 【教育組織】

【評価指標①】2020年4月にビジネス学部（仮称）を新設する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2020年4月、150人の入学定員を満たしてビジネス学部がスタートし、学生に対して適切に教育活動・学修支援などを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス学部、教務課および全学教育推進センターが連携し、教育の質を保证するとともに、数学補習プログラムや学生面談について学修ポートフォリオを活用し充実させるなど、全教職員で学生を全面的に支援する。

(2) 【教育内容】

【評価指標①】既設学部・科の教育課程の変更を行い、カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに則して、体系的・構造的な教育課程を編成する。合わせて、学修成果の検証サイクルを確立する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・チェックの実施結果をもとに、カリキュラムの体系性や授業科目の内容について見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・チェックの結果に基づき、カリキュラムの改正や授業科目の内容について見直しを行う。
<ul style="list-style-type: none"> 学修成果の可視化の観点も踏まえ、ステークホルダーが理解でき、社会で有用となるディプロマ・ポリシーとなるように、ディプロマ・ポリシーの点検・評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 中教審の教学マネジメント特別委員会に取りまとめられる『教学マネジメント指針』を学内で共有し、学修者主体のディプロマ・ポリシーとなるよう点検する。
<ul style="list-style-type: none"> 研究科長・学部長・科長会において、IR情報（学修行動調査等）を利用した教育課程の適切性についての検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究科長・学部長・科長会において、学修行動調査の分析結果を用い、教育課程の課題把握と改善策を検討する。2020年度導入予定の学修度（成績を基にレーダーチャートで表示）や、授業評価アンケート、学内の様々なIR情報、卒業年次生アンケート等の調査結果を活用して検討する。

【評価指標②】グローバル社会で必要となる英語によるコミュニケーション能力を高めるために、体系的・構造的な教育課程を編成する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 現行の英語教育の点検・評価を実施し、大学・短大共通の基本的な英語コミュニケーション能力を養成するための実行体制を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学教学改革推進委員会の下、ワーキングチームを結成し、大学全体、短大全体として目指すべき最低限の英語コミュニケーション能力を策定し、それを養成するために教養教育課程を中心とした教育プログラムのあり方について検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 学部・科の特性に応じた、より高次の英語コミュニケーション能力養成のポリシーを達成するための、教育プログラム案をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学教学改革推進委員会の下、ワーキングチームを結成し、学部・科の特性に配慮しつつ、より高次の英語コミュニケーション能力を学部・科ごとに策定し、それを養成するための教育プログラムのあり方について検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 学生が意欲的・継続的に英語学修を行うことができる仕組みを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正課外活動も含め、特に高年次の学生が英語に触れる環境を創出する。

【評価指標③】教育課程の変更にあわせ、2020年度までに文芸学部のコースの見直しを行う。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムが円滑に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム実施の支援を行うとともに、実施後のカリキュラムの点検・評価を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・学びの階梯性を重視し、特に1年次配当の専門科目群において学生が領域横断的、かつ主体的に学びを深めることを目指した新カリキュラムについて、DPに見合う学修成果の実質化という観点からも、円滑に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が領域横断的、かつ主体的に学びを深めることを目指した新カリキュラムを適切に実施するとともに、DPに見合う学修成果の実質化という観点から、実施後のカリキュラムの点検・評価を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの実施をふまえた学生募集活動を行う。受験生にその魅力の訴求をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの実施をふまえた新しい学部紹介動画と学部紹介パンフレットを作成し、OCなどで受験生に向け上映・配布する。

【評価指標④】教育課程の変更にあわせ、国際学部のコースの適切性、GSEプログラムの点検・評価を行い、充実方策を実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度は原則として英語特別演習Vを全員が3年次に履修することを徹底する。また、国際専門演習および英語特別演習V (Academic Writing) の成績をB以上の割合を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語特別演習V Aおよび同Bを1クラスずつ増設する。英語特別演習Vの時間割を分散させる。英語特別演習Vのクラス指定を検討するとともに、始業時ガイダンスにおける説明・相談・指導を強化する。
<ul style="list-style-type: none"> ・1年次GSEプログラムの定員は80名とし、3・4年次時点での継続率を概ね50% (40名程度) とすることを旨とする。半年または1年間の留学を奨励し、GSE参加学生の留学率40%以上とすることを旨とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力がある学生は一般入試で入学する者が多く、継続率が高いため、一般入試受験を予定する高校生に向けてDM等で働きかける。
<ul style="list-style-type: none"> ・全参加者が英語での卒業研究を提出し (提出率100%)、80%以上がB以上の成績とする。TOEIC Writing 試験受験者の9段階中の7 (海外出張レベル) 以上の割合を50%以上とする。2-3年次のGSEプログラム参加者のTOEIC試験受験率を、2019年度と比較して10%向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次の初めから2年間にわたり少人数で英語による論文執筆指導を行う取組みを継続する。図書館と連携し、各学年の学術情報検索スキルを強化する取組を行う。English-Speaking TA、TOEIC Writing 試験検定料補助、学修カウンセリングなどのGSEプログラム参加者支援の取組を継続する。それぞれの効果に関するデータの蓄積に引き続き務める。
<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度に引き続き70%以上の回答者が非常に満足または概ね満足を選択することを旨とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度の維持・改善に向けて、GSEプログラム科目の授業における一層の工夫やカリキュラムの改善に努める。English-Speaking TA、TOEIC 検定料補助、GSE学修カウンセリング、入学前学修などの参加者支援を継続する。

【評価指標⑤】看護学部について、2019年度に保健師養成課程を導入する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・学部のディプロマ・ポリシーに基づく保健師養成の達成に向けて、2年次の保健師課程カリキュラムが運営される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次科目並びに2021年度から開始となる3年次科目との連動性を踏まえた科目間の調整を行なうとともに、学修効果の高い科目運営を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師課程選択者の選抜において、保健師への志向性の高い学生が選抜されるとともに、学生の納得感が得られる選抜プロセスにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師課程履修への意欲を高める働きかけを行なうと共に、選抜試験に関する手続きを周知し、相談体制を整える。学部内では保健師課程選択者の選抜方法の詳細を確定し、公正な選抜を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度から開始となる保健師課程の実習 (公衆衛生看護学実習) が滞りなく行なえるよう、必要となる準備が整う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護学実習の運営に向けて、東京都との調整連絡会議に参加するとともに、本実習と関連して実施時期の変更となる領域別実習のための学部内ならびに実習施設との調整を行なう。

【評価指標⑥】学生の精神的自立・職業的自立・社会的自立の基盤となる能力を養成するために、2020年度に新しい教養教育の教育課程を編成する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度以降開設となる授業科目 (2年次以降配当科目) について、確実に開設するよう準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働とリーダーシップコア科目について、授業担当者の適正な配置を行い、科目の趣旨の共通理解のもとに授業を運営できるようにする。

【評価指標⑦】教育課程の変更にあたり、授業科目の精選・科目選択の幅の見直しを行う。既設学部・科の専門科目のコマ数を2017年度比で300コマ削減する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・2021年度開講目標コマ数2509.2コマ（対2017年度実績コマ数8%減の218.2コマ減）を目指す。（専門教育のみ）	・研究科長・学部長・科長会において、コマ数削減の目標値を共有化したうえで、各学部・科においてコマ数の削減を図る。

【評価指標⑧】KWUビジョンの達成を目指し、学外組織との連携による課題解決型アクティブ・ラーニング授業を全学生に提供する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・全学教育推進センター教員を中心に、アクティブ・ラーニング推進、授業支援がなされている。	・全学教育推進センター所属の専任教員を配置し、全学FD委員会と連携を取り、FD活動の活性化を図る。
・教養教育科目「協働とリーダーシップコア」科目について、2021年度の開設に向けた準備を行う。	・協働とリーダーシップコア科目について、授業担当者の適正な配置を行い、科目の趣旨の共通理解のもとに授業を運営できるようにする。
・課題解決型授業をサポートするためのラーニング・アシスタント（学生アシスタント）について制度化を行う。	・ラーニング・アシスタントの位置づけ、育成方法、インセンティブの付与（報酬、単位付与）などのあり方および管理部署について明確化し、ラーニング・アシスタントの内製化を図る。
・教養教育科目「協働とリーダーシップコア」科目について、全学教育推進センターの役割を明確にする。	・リーダーシッププログラムの管理運営を教務課と全学教育推進センターで協働し、支援内容を検討する。

(3) 【教育方法・学修成果】

【評価指標①】学生の卒業時の学修成果の質を保証するための仕組みを整備する。特に、学生ポートフォリオの導入とGPAの活用は必須の検討項目とする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・学位授与にあたり、ディプロマ・サプリメント（学位記や成績証明書等の補足資料）など学生が獲得した知識や能力等を明らかにするための資料を交付する。	・ディプロマ・サプリメントの仕様を確定し、ディプロマ・サプリメントが恒常的に発行できるようにシステムなどの整備を行う。
・成績と紐づいたディプロマ・ポリシーの達成度を可視化する。	・カリキュラム・チェック表と成績から、ディプロマ・ポリシーの達成度を算出し、学修ポートフォリオに表示させる仕組みを検討する。
・基礎ゼミナールの各授業間のGP（成績評価値）が平準化している。	・基礎ゼミナールにルーブリックを導入する。
・担任の役割を明確かつ周知することで、点検・評価を実施する。	・学修成果を可視化した学修ポートフォリオを有効利用し、学生の学びのPDCAサイクルを確立するため、教学部署全体で、学修ポートフォリオの利活用について課題化する。
・今後の本学としての入学前教育の在り方について検討する。	・入学前教育の取り組み状況等と入学後の学修状況等とどのような関係性が見られるか、アドミッション委員会、IR推進プロジェクト、教学改革推進委員会で連携をし、入学前教育の有益性について調査・分析する。

【評価指標②】学修成果の可視化や成績評価の標準化の観点から、専任教員の担当科目の50%以上においてルーブリックを導入することを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ルーブリックについて、専任教員の担当科目の20%以上で活用されている。（2019年度の活用率は未調査）	・研修会の開催やマニュアルの浸透を通じてルーブリックの普及を図る。
・ルーブリックの活用状況を把握する。	・ルーブリックの活用程度（何をもち活用したといえるのか）を明確にし、活用状況についてアンケートやティーチングポートフォリオ等を用いて把握する。

【評価指標③】教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催等により、FD活動の活性化を図る。また、全教員のFD活動の参加を目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・専任教員のFD活動参加率100%を目指す。	・全専任教員が主体的にFD活動に参加できる環境づくりを行う。
・「全学教育推進センター」の業務や具体的な活動計画を整理し、教育活動の活性化が実現している。	・全学教育推進センター所属の専任教員を配置し、FD活動の活性化を図る。

I-3. 学生生活

目標

充実した学生生活を支援し、学生の資質・能力を向上させる。

主となる委員会・会議 全学学生委員会 共立女子大学・短期大学国際交流委員会	主となる事務局 学生課
---	----------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 学生が孤立して学生生活を送ることのないよう、コミュニティ形成に関わる支援を行い、自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる学生の割合を98%以上に向上させることを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・1年修了時に自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる学生の割合を95%にする。	・担任年間スケジュールに沿って面談などを行い、必要に応じた情報をkyonetで共有する仕組みを平準化させる。また、図書課主催ランチセミナーのうち、5回学生課企画のセミナーを実施する。

【評価指標②】 学生が学修に専念し、継続することができるよう、給付型奨学金の拡充を図る。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・サポーターズ募金を原資とする新しい給付型奨学金制度を立案する。	・国の奨学金制度の全体像を捉えて、櫻友会奨学金、冠奨学金、その他本学の奨学金を整理した上で、多様な学生・優秀な学生を確保するために、入試（編入含）や学部ごとの教育充実を促進させる新たな奨学金制度の立案について、財務課・入試事務室等と連携し検討する。
・現在制定している冠奨学金の資金支援を得る。	・寄付者を訪問し資金支援の協力を頂く。

【評価指標③】 学生が心身の健康を維持し、学修を継続することができるよう、フィジカルヘルスおよびメンタルヘルスに関わる相談体制の充実を図る。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・健康診断に基づいた保健室・校医面談のための基本的な判断基準を作る。	・判断基準を関連部署で共有する。
・学生に向け、心身の健康のための情報を発信する。	・図書課主催ランチセミナーを利用し、保健室から健康に関する情報を発信する。
・新体制の検証と相談しやすい環境を整え維持する。	・月1回のコンサルテーションで、校医による助言を受けて関係者の情報共有を取り、支援体制を検証して相談環境を維持する。
・教職員対象の研修会を企画し、参加者を70人にする。	・教職員から、レクチャーを受けたい項目を収集する。

【評価指標④】 健康な学生生活を送るために欠かせない食の提供を充実し、学生食堂・売店の満足度を80%以上に向上させることを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・卒業年次生アンケートにおける学生食堂・売店の満足度を78%にする。	・食堂を利用したイベントを開催する。また、売店に置いてほしい商品など、学生の意見を聞くためのアンケートBOXを設置し、速やかに商品に反映させる。財務課と協議し、寄付金を原資とした食堂運営補助を行う。

【評価指標⑤】 長期型・短期型、国内型・国外型を問わず、グローバル化に対応した教育（留学）プログラムの支援を充実し、参加者数を10%以上に増加させることを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・留学生を増加させるための長期計画を作り、留学率（在籍学生数に対する留学者の割合）について、大学は5.0%、短大は1.0%を目指す。	・学生が参加しやすい短期プログラムを企画し、実施する。協定校、提携校開拓のための視察、協定校の受入状況の情報交換のための視察を教員と協力して実施する。
・グローバルコモンズ相談会を年3回実施し、学生が相談しやすい場を作り、留学情報を提供する説明会を年3回開催する。	・グローバルコモンズ留学相談会、留学に関わる展示コーナーを開催する。募集説明会に限らず、留学に対する理解を促進させる為、留学に関連する説明会を増やす。

【評価指標⑥】 外国人留学生と日本人の在学生在が外国語で交流する機会の増加を図る。

2020 年度 到達目標	2020 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生と本学学生が外国語で交流する機会を年間 5 回実施し、延べ 50 人の参加者数を旨す。トークルームは前年度を上回る参加者数(2019 年 12 月時点 46 名)を旨す。 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生が日本人学生と話したいトピックを事前にヒアリングの上、トークルーム実施内容の企画を留学生と共に立案する。トークルームへの参加を交換留学や派遣留学、規程留学奨学金の応募条件とする。
<ul style="list-style-type: none"> キャンパスサポートチューターは、前年度同数程度を旨し、外国人留学生と本学学生が交流できるイベントを 5 回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> チューターの応募者数は前年度と同数程度を旨とする。日本語教師関連授業始め専門科目を通して申請者を募る。
<ul style="list-style-type: none"> チューターと留学生のミーティングを年 3 回設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生と日本人学生の意見交換を活発化し、お互いの理解を深めることを目的とした定期的なチューターと留学生のミーティングを年 3 回設定する。
<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに新入生へ向けたチューターの活動報告会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> チューターの活動内容の魅力や活動内容の発信を行い、サポートチューターの活動内容の理解促進を目的とした活動報告会を実施する。

【評価指標⑦】 正課外教育の支援の充実により、多様な学びの機会を提供し、正課外教育に対する学生満足度を 90% 以上に向上させることを旨す。

2020 年度 到達目標	2020 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 共立アカデミーの活動の点検・評価を行い、適切性と今後の在り方を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座の役割の一つとして、社会貢献・地域連携の機能があることに鑑み、地域連携センターとも協議・連携し、具体的内容を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 卒業年次生アンケートにおける共立アカデミーの学生満足度を 90%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者アンケートを参考にして開講講座を決定する。
<ul style="list-style-type: none"> 学生受講者数を延べ 2,850 人にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式の日にご父兄対象の説明会を実施する。学生無料講座の広報を定期的に発信する。新学部に対応した講座の開講について、教員と相談し計画する。
<ul style="list-style-type: none"> 資格や検定の合格率を平均で 77%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職進路課と連携し、低年次から資格、検定試験の受験を推進する。

【評価指標⑧】 学生が主体的な活動の中で能力を伸ばすことができるよう、正課外活動への支援を充実し、クラブ・サークル支援の満足度を 80%以上に向上させることを旨す。

2020 年度 到達目標	2020 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 卒業年次生アンケートにおけるクラブ・サークル支援満足度を 80%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生満足度の維持・向上のため、資金面の援助について、財務課と予算化の流れを構築する。また、今まで以上に学生目線で寄り添った対応に努める。リーダーシップ研修、更に振り返りのためのフォローアップ研修を実施する。

I-4. 学修支援・授業支援

目標

学修に専念できるよう、十分な学修支援を行うとともに、授業支援を適切に行い、教育効果を高める。

主となる委員会・会議

全学教学改革推進委員会
全学FD委員会
図書館運営委員会

主となる事務局

図書課

2020年度 事業計画

【評価指標①】授業外での学修の必要性を高めることにより、卒業時における1日当たりの授業時間外の学修時間について、「2～3時間以上」を80%以上、「していない」を0%にすることを旨とする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・1日当たりの授業時間外の学修時間について、「2～3時間以上」を30%以上、「していない」を10%以下にすることを旨とする。	・全学教学改革推進委員会や全学FD委員会で学修時間の増加についての対応策を検討し、全学教育推進センターで決定内容について実行する。
・シラバスの見直し、改善を支援する体制を構築する。	・シラバスのガイドラインを見直し、相談に役立てる。授業外学修時間とシラバス記述の関連を分析する。
・LMS (kyonet クラスプロフィール) のコンテンツ利用授業数が前年度比20%増加することを旨とする。	・LMSの有効性や支援内容を広報する。
・kyonet 利用説明会・相談会のプログラム化をする。	・支援、相談実績からkyonet 利用説明会・相談会のプログラム内容を検討する。
・2020年度入学者から各学部・科の年間履修上限単位の見直しを行う。	・単位制度の趣旨や学修成果と学修時間の密接性について、各学部・科の理解を得て、円滑に導入できるように準備する。
・100分授業の2021年度導入を旨とする。	・これまでと同じ授業時間を確保しつつ、余裕をもった学年暦にできる100分授業導入のための諸準備をする。

【評価指標②】アクティブ・ラーニングの普及を中心とした、教育効果を高める授業支援の在り方を検討し、適切な支援体制を整備する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・シラバスの授業方法にアクティブ・ラーニング手法を記載している授業の割合が大学短大とも60%以上になることを旨とする。	・全学教育推進センターの教職員を中心に、アクティブ・ラーニングの有効性や支援内容を検討する。
・ICTを活用したアクティブ・ラーニング事例発表会を開催する。	・kyonetの利用に関する発表会の開催について検討する。

【評価指標③】授業外学修の支援を充実させ、学生が目指す学修成果を達成できるように支援する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・看護学部の動画教材についてe-learningコンテンツ(コース管理)として設計、運用する。	・コース管理機能を用いた、e-learningコンテンツについて看護学部に提案する。
・著作権法に基づいた授業目的公衆送信補償金の対応と著作物などの円滑な利用をする。	・授業目的公衆送信補償金の理解と説明および財源を確保する。

【評価指標④】ラーニング・コモンズの利用者数を年間50,000人以上、利用満足度を90%以上、図書館利用サービス満足度を90%以上にすることを旨とする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ラーニング・コモンズの利用者数を年間60,000人以上、図書館利用サービス満足度90%以上を維持する。	・レファレンスでの相談内容より、論文執筆や授業の課題に関する資料の購入を推進する。電子資料、開架以外の資料の利用についてガイダンスなどで周知徹底する。毎年実施している「リブコモ満足度調査」にてサービス、場所の満足度について経年比較し満足度向上の要因を把握する。
・4月5月に図書館個別ガイダンスを10回以上開催する。	・基礎ゼミナールの図書館ガイダンスをkyonetを用いてe-learning化することで、スタッフのリソースを個別ガイダンスに割り当てる。
・図書館への投書内容、回答を10件以上公開する。	・図書館ポータルシステム「MyLibrary」の投書機能を活用し、レファレンスサービスや図書館資料に対するニーズ調査を行う。

I-5. 就業力

目標

積極的にキャリア形成支援を行い、社会を生き抜く力を育む。

主となる委員会・会議 全学学生委員会	主となる事務局 就職進路課
-----------------------	------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 在学生向け調査および卒業生調査を活用し、体系的なキャリア教育支援プログラムを実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ 共立女子大学・短期大学のキャリア教育について、教養教育におけるキャリア教育と担任による個別指導を中心に実質化する。	・ 学修目標の記載と担任による面談を確実に行う。
・ キャリア教育体系に沿った、次年度の就職進路支援策を策定する。	・ 各学部・科の教員と連携を取りながら、学生の状況や採用情報などを提供する。職員及びキャリアカウンセラーの全員がキャリア教育体系を理解し、就職進路支援を行う。

【評価指標②】 学生アンケート項目における、就職・進路満足度について、95%以上の学生から満足を得ることを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ 卒業年次生アンケートの就職支援の満足度を、「あまり満足していない」は2018年度の12%から2020年度は10%、「全く満足していない」は2018年度の5%から2020年度は3%にする。	・ 就職活動スケジュールに合わせ、最適な時期に効果的なガイダンスやプログラムの実施を企画する。満足度を検証する。
・ 卒業年次生アンケートにおける進路先の満足度を、「あまり満足していない」は2018年度の4%から2020年度は2%、「全く満足していない」は2018年度の2%から2020年度は1%にする。	・ 就職活動の早期化に対応するため、キャリアカウンセラーの繁忙期増員を1月中旬から行う。また、キャリアカウンセラーの個別相談の予約をスマートフォンからできるようにする。研修参加等で専任職員のスキルアップを図る。

【評価指標③】 都内女子大就職率 Top 5 入りすることを目標にする。(就職率=就職者数÷(卒業者数-大学院進学者数)×100)

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ 就職率について93%以上(前年度92.1%)を目指す。	・ 景気減速に伴う企業の採用活動の縮小を想定し、今まで以上に企業とのパイプを太くする。具体的には、内定をもらった企業に月平均10社以上の訪問(企業訪問)をする。
・ 活動報告書提出率を2018年度の45.8%から2020年度は50%にする。	・ kyonetの成績画面を開けると内定届と活動報告書を提出するよう表示するシステムを導入する。
・ 就職率について都内女子大5位以内(前年度4位)を維持する。	・ 新しい就職求人システムを導入し、学校求人30%以上増やし学生に満足のいく求人情報を提供する。UIターン就職の支援を充実するため、就職協定締結自治体等が企画する情報交換会等に参加をし、地元企業との交流を図る。

【評価指標④】 学生アンケート項目における、就職に対する不安を2017年度調査より5ポイント以上減らすことを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ 就職に対する不安を2019年度調査より1ポイント以上減らす。	・ 適切な時期に低学年向けのガイダンスを実施し早めに就職に対する意識付けを行う。また、大学3年生・短期大学1年生との就職進路課員との全局面談の参加率を上げるためにダイレクトメールを出す。

【評価指標⑤】 卒業時における社会人基礎力の自己評価で、全項目の平均を3.30以上にすることを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ 対人関係のスキルが身についたことを、90%以上の学生が卒業年次生アンケートで自己評価できるようになり、社会人基礎力の全項目の平均が3.20以上になる。	・ 社会人基礎力チェック(PROG)を1年次と3年次に実施する。全員受検を目指すとともに、解説会の参加者を増やす。社会人基礎力チェックの結果をkyonetの学生ポートフォリオを通して活用し、自己理解ツールとして有効である旨広報する。インターンシップや企業連携によるPBL型授業の履修を促す。

I-6. 地域連携

目標

地域連携活動を通じて、地域に関する教育・研究の進展を図るとともに、知の成果を広く社会に還元し、教育的・学術的・文化的貢献を果たす。

{

 主となる委員会・会議
 社会連携センター

 主となる事務局
 教務課

}

2020年度 事業計画

【評価指標①】 本学の特徴や強みを踏まえた地域連携活動を推進するため、地域における本学の役割や地域連携の在り方を明確化する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 「社会連携センター」の業務や具体的な活動計画を整理し、協定に基づき、自治体、大学間又は産学官連携の具体的な取組みを、社会連携センターを中心に、教員・学生とともに進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携協定を締結した南三陸町におけるフィールドワークプログラムを実施する。また京都女子大学との大学間連携において教員・学生による学術研究交流企画を提案する。併せて地域や企業等と連携した全学的なPBLを普及させる。
<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な視点のもとに地域社会との協働活動を活性化させるため、その方向性が合致するSDGsを活用した活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの教職員、学生への理解・周知を行い、地域社会との協働活動において指標に繋がる企画を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 2019年度に進めている連携事業の更なる充実を図り、成果の社会還元を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携協定を締結している自治体と相互に活性化に繋がる取組を実施する。また(株)八社会、林兼産業(株)などの連携を強化し商品化により本学のリソースを発信する。

【評価指標②】 地域における他大学、各自治体、地域経済界等で構成されるプラットフォームを形成し、教学改革を推進する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 単位互換制度の本格実施を行い、学生へより多様な学びの場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 千代田区キャンパスコンソ全体の中長期計画などと連動した本学の地域連携事業計画と数値目標に基づき、単位互換提供科目の実履修科目を、前年度比5%増する。
<ul style="list-style-type: none"> 千代田区キャンパスコンソの活動をより活発なものとし、共同研究、共同公開講座などの実施を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 千代田区キャンパスコンソにおいて本学が責任校となっている共同研究分科会および共同公開講座分科会での検討を踏まえ、共同研究と共同公開講座を実施する。

【評価指標③】 家政学部児童学科付設の「発達相談・支援センター」の活動を点検・評価し、地域と連携する全学的なセンターにするなど一層の充実を図る。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 発達相談・支援センター運営委員会において、全学的なセンターなどの今後の方向性について検討を行うとともに、活動の点検・評価を行い、適切性と今後の在り方を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達相談・支援センター運営委員会には、家政学部教員のほか、大学全体の意見を集約するためにも各学部1人以上から組織されるようにして、多様な視点から検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 子育て広場「はるにれ」は、年間750組の利用、子育て講座年間6回、計80組の参加を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数を増やすため、広報「千代田」や大学HPで広報する。また1回券200円に加えて半期券1000円も導入する。さらに、利用者アンケートの結果を分析し保育環境や内容を改善する。
<ul style="list-style-type: none"> 子育て広場「はるにれ」について、質の高い運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度より導入した地域貢献コーディネーターを引き続き配置し、専門性を生かしたサポート、スタッフ間の連携主導、学生ボランティアの指導等を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児親子グループ「さくらんぼ」は、年間30回、登録の親子45組を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> さくらんぼの参加希望者は毎年定員以上の応募があり抽選で決めているが、落選された応募者に対しても「はるにれの子育て講座」のご案内をするなど重要なステークホルダーとしてネットワークの構築に努める。

【評価指標④】在学生の修学や教職員の子育て支援をより一層サポートするため、共立女子学園内託児所の活動を点検・評価し今後の在り方を検討する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・託児所の今後の方向性について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・託児所の活動の点検・評価を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援を必要とする学生・教職員に対して適切に一時保育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやkyonet、ガルーンなどで託児所の周知を行い利用の促進を図る。

I-7. 教学マネジメント

目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的な企画立案、機動的な意思決定および執行を行う。

主となる委員会・会議 全学教学改革推進委員会	主となる事務局 教務課、総合企画室
---------------------------	----------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 学長を中心とした全学的な教学マネジメントを構築し、大学教育の改革サイクルを展開させる。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・IR情報を利用して、教育課程の適切性についての検証を行う。	・研究科長・学部長・科長会において、学修行動調査の分析結果をフィードバックし、検討を行う。
・3つのポリシーを踏まえた適切性にかかる点検・評価のサイクルを確立し、学外の参画を得て客観的な視点を取り入れた点検・評価を行う。	・自己評価委員会に外部評価者を招聘し、本学の点検・評価結果について意見を聴取する。
・全学的な内部質保証システムを構築し、学位プログラムの運用・管理、検証、改善・改革につなげる。	・新しい内部質保証推進体制（方針、組織、規程等）を決定する（6月までに）。それをもとに、内部質保証システムが有効に機能するように活動し、進捗管理をする。
・2021年度より、共立女子大学・短期大学で、共立女子高等学校、共立女子第二高等学校を対象とした、アドバンストプレイズメントプログラム（高校在学中に、大学の初級レベルのカリキュラムが学び、高校での単位化に加えて、進学後、大学での単位として認めるプログラム。以下、APプログラム）を導入する。	・2021年度に導入するため、共立女子大学・短期大学、共立女子高等学校、共立女子第二高等学校とで連携し、時間割編成を含めた体制整備をする。
・本学の立地を最大限活かし、受講者や地域のニーズを踏まえたリカレント教育の推進について検討する。	・受講者や地域のニーズを的確に捉え続け、特色あるリカレント教育を継続的に実施できる体制づくりが重要であることから、共立アカデミーとも連携した仕組み作りを検討する。
・大学院の入学定員の適正化について検討する。	・学長・副学長・研究科長及び関係各部署と共に現状の問題点や課題を洗い出し、入学定員の縮小も検討内容に含めつつ、具体的な改善方策を示し、実行する。

【評価指標②】 教育課程等の見直しに合わせて、専任教員と非常勤教員との連携や責任体制を明確化し、授業科目における専任教員の担当比率を高める。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・カリキュラムを精選することで専任教員の担当比率を高める。各学部・学科別で大学・短大全体の平均値である専任教員6:4非常勤教員以上を目指す。	・カリキュラム改正にあたっては、授業科目の精選を行い、コマ数の削減を図る。
・専任教員と非常勤教員との連携や責任体制を明確化する。	・各学部・科の非常勤教員との連携の点検・評価を行う。

【評価指標③】 共立女子大学・短期大学の教員枠数である「基本教員数」に基づき、学部・科の特性を踏まえ、教育研究能力の高い教員を採用する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・2019年度に整理した基本教員数の考え方に基づき、教員組織の編成を行う。	・専任教員の役割（出校日数や持ちコマを含む）について明確化する。

【評価指標④】 入口—中身—出口管理を一貫した流れとして、学生の成長に寄与できる、IRを実践する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・QlikSense（分析ツール）を活用して各種データを可視化することで、各委員会や各部署でエビデンスベースの議論がしやすい環境を整える。	・QlikSenseを本格稼働させるためのデータを整理する。整理するにあたっては各主管部署と適切に連携する。
・アセスメントポリシーに基づいた点検・評価を行うための情報提供を行うことで、学生の成長（学修成果）を基点とした改善を支援する。（内部質保証機能の強化）	・執行部や各主となる委員会・会議と適切にコミュニケーションを取りつつ、アセスメントポリシーに基づき必要な情報を適切なタイミングで提供する。
・IR機能を研鑽し、強化する。	・IR機能に関係のある研究会、研修会、社会人教育などを定期的に通講する。

【評価指標⑤】 学園の経営課題や共立女子大学・短期大学の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある学校づくりに教職員一体となって取り組む。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 中期計画に関するグットプラクティスを学内共有し、インナーコミュニケーションを充実させることで各活動のPDCAサイクルがより円滑に回ることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 第二期中期計画の進捗状況を共有し全学一致体制を構築することを旨し「Vision Book」「Vision Letter」を定期的に発行する。
<ul style="list-style-type: none"> 第二期中期計画の各進捗度を60%以上とする。(内部質保証機能の強化) 	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の進捗状況を「進捗管理シート」を活用して可視化して、「事業計画」「事業報告」と連動させながら、適切に点検・評価する。
<ul style="list-style-type: none"> ビジョンの達成に向けた戦略的な企画立案、機動的な意思決定がエビデンスに基づいて実行されていることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> QlikSenseを活用して、データ収集やクレンジングに係る時間を短縮し、可視化・分析を行う時間を増やしていく。
<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーからの声や期待を意識し、積極的に説明責任を果たしていくことにより、社会からの評価と支援を得るという好循環を得るための情報公開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教学マネジメント指針案で示される内容を踏まえつつ、社会と積極的なコミュニケーションが取れているのか、点検・評価・改善する。

II. 共立女子中学高等学校

II-1. 生徒確保

目標

教育課程・教育指導の改善充実、戦略的な広報、入試制度改革等を通じて、志願者の質の向上と人数の増加を図る。

主となる委員会・会議
 広報部
 教務部
 中高将来構想専門委員会

主となる事務局
 中高事務室

2020年度 事業計画

【評価指標①】 共立女子中学校について、入学定員を確保する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・1学年定員320人を確保する。	・2019年度に実施した広報活動を検証し、さらに効果的な企画に取組む。特に生徒のPR委員の活動を更に活発化して、学校の魅力を生徒目線で受験生に伝える。

【評価指標②】 実受験者数で1,000人、受験者総数で1,500人以上を目標にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・各入試の特徴をアピールし、様々な層の受験生を増やす。受験者総数で1500人以上、実質倍率2倍以上を維持する。	・フェイスブックなどのSNSを利用し、大手塾通塾者以外の受験者や公立一貫校志願者層などにも、アピールしていく。また、帰国・インタラクティブ入試広報用の英語教育リーフレットを作成する。

【評価指標③】 教育理念に共感し、目的意識の高い受験者層を拡充するため、戦略的な広報計画を実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・2020年以降の教育改革に対応した教育内容をアピールする。	・学校PR委員の生徒やPTA保護者と協力してリベラルアーツの実践を含む質の高い教育への取組みを発信する。

Ⅱ-2. 教育の質

目標

共立女子中学高等学校独自の学習システムを充実させ、進学面を強化し、時代に即した生徒の学力向上を図る。

主となる委員会・会議 教務部 国際交流部 進路指導部 情報システム管理委員会	主となる事務局 中高事務局
--	------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上や資格試験等への対応を進める。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・中学卒業までに全員英検準2級以上の取得を目指す。	・英検準2級以上やTEAP対策の問題集を購入しランゲージスクエアや進路指導部室などで学習できる体制を整える。英作文対策講座に加えてSpeaking対策講座を設定する。

【評価指標②】グローバル人材育成の社会的要請や、海外研修希望生徒の増加傾向等を踏まえて、国際交流プログラムを充実させる。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・英語学修の意欲向上を目指す。	・様々なプログラムやイベントを企画する。

【評価指標③】新中学入試（帰国生入試における定員増、英語入試の開始、インタラクティブ入試の導入等）により、既に一定の英語力を有する入学者への英語力の向上策を検討し、確実に対応する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・英語運用スキルの高い生徒のモチベーションを維持・向上させ、英検2級以上の成績上位層の増加をさらに目指す。中学卒業時での英検準2級以上の取得率を50%以上、TEAPのSpeaking・Writing平均点を共に70点以上を目標とする。	・ランゲージスクエアスタッフとしてネイティブとの交流を通して、運営やイベントの企画をさせる。

【評価指標④】新学習指導要領を踏まえつつ、「4+2システム」と「4つの力の育成プログラム」の点検・評価を行い、各教科指導の質を高める。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・中学校学習指導要領の完全実施に向けた最終的な準備を整える。	・各教科・学年に周知し、新学習指導要領に準拠した授業内容の確定をする。

【評価指標⑤】思考力・判断力・表現力を高める時代に即した教育の展開として、主体的・対話的な深き学びを図り、その実施方法の研究を進める。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・中学3年生が、企業インターワークを経験する中で、日常の学修が社会とつながっていることを意識させる。	・7月に教員向け研修を行い、9月から1月にかけて、LHRの時間などを活用しながら実施する。

【評価指標⑥】ICT教育の充実策を検討し、実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・中学1年生・中学3年生・高校1年生にタブレット（iPad）を導入し、全学・全生徒が持つことにより、より広範な学校活動でICTの活用を図る。	・授業に限らず、学年行事、委員会活動や部活動でICTを活用できる場面を検討しつつ、増やしていく。

Ⅱ－３．教育力

目標

生徒の学力向上・進学実績の向上を図るため、教育力を向上させる。

主となる委員会・会議 教務部 進路指導部 生活指導部	主となる事務局 中高事務室
-------------------------------------	------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 教員の相互評価や研究授業・教員研修を充実させ、確固とした教員の育成システムを構築する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・教員の相互評価システムの構築の具体化を図る。	・検討、資料収集を進め、教員の相互評価システムの構築作業に入る。

【評価指標②】 学校評価に関わる生徒アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にするを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・学校評価に関わる生徒アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にする。	・補習・補講の機会を確保するとともに、ICTを活用して個に応じた指導体制を確立する。

【評価指標③】 学校評価に関わる保護者アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にするを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・保護者の学校活動への十分な理解と、共に生徒を育ててゆくという協力体制の構築を進めていく。	・年6回の授業参観や保護者との情報共有を維持するとともに、保護者側の考え方の把握を効果的にできるようにする方法を検討する。

【評価指標④】 学校評価に関わる生徒アンケートに、「学校生活を通して、校訓である誠実・勤勉・友愛を意識し、行動ができるようになった」の設問を新たに設け、「おおむねあてはまる」以上を80%以上にするを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・教員からの働きかけによるものより、生徒に主体的に校訓の意義を体得させ、行動に結びつける。	・校内の生徒会関係の「新聞」などの発行物の中で、校訓の意義を特集したり、関係コーナーを設置したりするなど、生徒自身による意識の向上を目指す。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅱ-4. 進路

目標

大学進学等進路実績を踏まえた課題と対策について徹底した調査分析を行い、その結果に基づいて進路指導を充実させて、生徒一人ひとりに相応しい進路選択の機会を提供する。

主となる委員会・会議 進路指導部 教務部	主となる事務局 中高事務局
----------------------------	------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 国公立大学への現役進学率を毎年10%以上（東京大学3名以上）にすることを目標にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・国公立大学進学率を10%にする。	・地方国立大学を含めた進路先の選択肢多様化により生徒と進学先とのマッチングを向上させる。

【評価指標②】 難関私立大学（早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学）の現役進学率を毎年30%以上に、またGMARCH以上の大学への現役進学率を60%以上にすることを目標にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・大学受験をゴールとしないモチベーションを育て、長期的視野に立ち、受験においてもチャレンジの機会を増やし、進学実績を回復基調にのせる。	・中高6カ年生徒・保護者対象の進路通信の発行の充実とともに教育プラットフォーム（Classi）を用いて、各発達段階に応じた内外の企画や価値ある情報を保護者・生徒に発信し、将来への具体的展望を持たせる。

【評価指標③】 共立女子大学・短期大学の教学面での魅力を伝え、志望者をサポートする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・高校生の学びの場の拡大となるよう連携を深め、共立女子大学を進路先として考える生徒を増やし、進学率15%を確保する。	・入試事務室との連携による高大接続を充実させ、共立女子大学教員による体験講座やPBL型企画などの計画・立案し、実施する。

【評価指標④】 2021年度入試からの新基準に沿った新入試制度対策を実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・高校3年生が、新入試制度の初年度にあたることをふまえて、情報を正確に収集し、生徒および保護者に迅速に知らせる。	・新入試制度に関する情報を正確に収集し、特に高校3年生およびその保護者に迅速に知らせる。

【評価指標⑤】 学校評価に関わる生徒アンケートの「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で90%以上にすることを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・学校評価に関わる生徒アンケートの「大学進学に向けての相談・進路指導体制が整っている」の設問において、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で現行の79%から90%に向上させる。	・放課後の進路指導室の利用率や進路行事への関心を向上させるための発信や企画を積極的に行う

【評価指標⑥】 学校評価に関わる保護者アンケートの「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で85%以上にすることを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・学校評価に関わる保護者アンケートの「大学進学に向けての相談・進路指導体制が整っている」の設問において、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で現行の74.1%からまず85%以上を目指す。	・進路通信などで、より丁寧に迅速正確な情報提供に努めると共に、「相談・進路指導体制」の充実を図る。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

II-5. 管理運営

目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的な企画立案、機動的な意思決定および執行をおこなう。

主となる委員会・会議 中高・二中高・幼稚園将来構想専門委員会	主となる事務局 中高事務局
-----------------------------------	------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 学園の経営課題や共立女子中学高等学校の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある学校づくりに教職員一体となって取り組む。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・教育環境の整備や拡充、教育環境の充実を、保護者や生徒がより実感できるようにし、関連の学校評価アンケートでの保護者・生徒の回答結果の向上を目指す。	・時代の状況にあった、新しいより効果的な教授法や指導法の研修機会を増やす。外部の教員研修へのより積極的な参加を促す。

【評価指標②】 併設校間の教員の人事交流を活発にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・定年退職者の状況、生徒数、カリキュラム編成等を勘案し、教育の質を低下させることのない教員体制となるよう共立女子第二中学校高等学校との人事交流を視野に入れ教員数の適正化を図る。	・生徒数、カリキュラム編成に則した教員数の見直しと、人事交流の必要性について両校長と検討する。

Ⅲ. 共立女子第二中学校高等学校

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ-1. 生徒確保

目標

教育課程・教育指導の改善充実、戦略的な広報、入試制度改革等を通じて、志願者を増加させる。

主となる委員会・会議 入試広報部 入試制度検討委員会 二中高将来構想委員会	主となる事務局 八王子事務室
--	-------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】共立女子第二中学校高等学校について、入学者数の増加に努める。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・共立女子第二中学校の募集において、2019年度入試の入学者数の水準を上回る80人を目標とする。	・進学塾訪問の継続、資料送付活動の強化、外部で実施する相談会、校内で行う説明会の適正化、海外帰国生入試の充実や新傾向入試の内容発展など、多様な受験生を確保するための入試検討を行う。
・共立女子第二高等学校の募集において、2019年度入試の入学者数の水準を上回る150人を目標とする。	・給付奨学金制度の浸透に加え、英語力向上と国際理解に主眼を置いた2021年度開設予定の英語コース（仮称）による入学者純増（高入生20名内進生10名）を実現するため、公立中・塾訪問、ネットによる広報等を展開する。

【評価指標②】共立女子第二中学校については、実受験者数200人、受験者総数で400人以上を目標とする。共立女子第二高等学校については、実受験者数350人、受験者総数で380人以上を目標にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・共立女子第二中学校の入試において、2019年度入試の受験者総数の水準を上回る400人を目標とする。	・認知度・魅力の発信強化、コアな志願者の増加・新しい受験層の開拓、多摩地区の地域事情を考慮したミクロ的視点を重視した弾力性ある広報活動を展開する。
・共立女子第二高等学校の入試において、2019年度入試の受験者総数の水準を上回る240人を目標とする。	・給付奨学金制度の浸透に加え、英語力向上と国際理解に主眼を置いた2021年度開設予定の英語コース（仮称）による入学者純増を実現するため、本校の魅力の発信強化、第1志望の増加・新しい受験層の開拓、多摩地区の地域事情を考慮した弾力性ある広報活動を行う。

【評価指標③】定員に満たない年次は、海外からの帰国子女を含め、積極的に転編入を受け入れる。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・海外の教育施設や海外帰国生向けの広報媒体を増やし、海外帰国生入試の認知度を上げ、志願者、入学者数を増やす。	・海外子女教育振興財団、JOBA、在外教育施設などを経由した広報活動を強化し、認知度を上げる方策を検討する。

【評価指標④】スポーツ・芸術活動等に優れている、また卒業生子女であることに配慮した入試制度を積極的に活用する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・スポーツ・芸術活動等に優れている、また卒業生子女で入学する生徒について、10名受け入れることを目標にする。	・部活動の状況をSNS等で広報する。大会やコンクールを通じて情報を収集する。また同窓会と連携し、卒業生子女に対する優遇制度の認知度を向上させる。

【評価指標⑤】教育理念に共感し、目的意識の高い受験者層を拡充するため、戦略的な広報計画を実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・教育理念に共感し、目的意識の高い受験者層を確保するため、一貫した本校の魅力を継続的に発信しつつ、給付奨学金制度の活用などを通して、志望順位・手続き率の向上につなげる。	・HPやSNS、広告媒体を効果的に活用し、英語力向上・留学推進を柱とした本校の魅力を発信する。
・全教職員間で本校の教育理念の共有を図る。	・受験者数の多いエリア、塾・学校などに重点を置いた効果的かつ戦略的な広報を実施する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ-2. 教育の質

目標

新学習指導要領・高大接続改革等、新たな教育体制に対応し得る教育課程やシラバスの充実、国際化の進展を図り、生徒の学力および21世紀に求められる力（思考力・実践力）の向上に努める。

主となる委員会・会議 英語科 二中高国際交流委員会 教務部 進路指導部	主となる事務局 八王子事務室
---	-------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は極めて重要であることから、英語教育改革を実行する。具体的には、徹底した英語教育を展開するシラバスに抜本的に変更する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・英語教育グランドデザインの完成を目指す。	・外部有識者を年間6回迎えた校内研修を実施する。
・グランドデザインの軸である「レイヤードメソッド」の活動の一環としての短期集中プログラムを実施する。 中学生：全員参加型プログラム 高校生：希望者対象のプログラム	・中学1年「MLS ドラマメソッド」は7月、中学2年「ブリティッシュヒルズ英語研修」は10月、中学3年「ISA エンパワメントプログラム」は7月に実施する。高校生「ISA エンパワメントプログラム」は7・12月に実施する。
・英語力向上・国際理解・異文化体験を目的とするニュージーランドでの短期・中期（ターム）留学を実施する。	・高校1、2年希望者に「短期ホームステイプログラム（ニュージーランド）」を8月に実施する。高校1年希望者は「ターム留学（ニュージーランド）」を3学期に実施する。
・1号館地下の「Global Language Square」をさらに充実させる。	・イマージョンワークショップを実施する。
・「英語コース（仮称）」の2021年4月導入を目指す。	・2021年4月導入を目指し具体的に検討する。

【評価指標②】全生徒の英語力を確実に飛躍させるため、4技能統合型の英語授業を展開し、実用英語技能検定（英検）における数値目標（下記）を達成することを目指す。

中学APクラス…卒業までに全員準2級以上取得

中学Sクラス…卒業までに全員3級以上取得

高校特別進学コース…卒業までに全員2級以上取得

高校総合進学コース…卒業までに全員が準2級以上を、うち25%が2級以上取得

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・中学APクラスは中学卒業までに全員準2級以上を取得する。	・4技能統合型授業の充実を軸に、オンライン英会話、英語宿泊研修、短期集中英語研修（MLSメソッド）等により、総合的に英語力向上を目指す。
・中学Sクラスは中学卒業までに全員3級以上を取得する。	・4技能統合型授業の充実を軸に、オンライン英会話、英語宿泊研修、短期集中英語研修（ISAエンパワメントプログラム）等により、総合的に英語力向上を目指す。
・高校特別進学コースは高校卒業までに全員2級以上を取得する。	・4技能統合型授業の充実を軸に、オンライン英会話、英検ゼミ、短期中期NZ留学（希望制）等により総合的に英語力向上を目指す。
・高校総合進学コースは高校卒業までに全員準2級以上を、内25%が2級以上を取得する。	・4技能統合型授業の充実を軸に、オンライン英会話、英検ゼミ、短期中期NZ留学（希望制）等により総合的に英語力向上を目指す。

【評価指標③】新学習指導要領を踏まえた「針路プログラム」の点検・評価を実施し、より一層充実させることで、各学年の外部模試における数値目標（進研模試判定でB1以上、学年の30%）を達成することを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・新学習指導要領を踏まえて点検した「針路プログラム」を各学年と共有し、外部模試における数値目標（進研模試判定B1以上、学年の30%）を達成することを目指す。	・新入試制度を念頭に、検定取得を大学への推薦条件の一つとして受験を奨励する。記述式問題や自己推薦書対策として小論文指導を強化する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ－３．教育力

目標

生徒の学力向上・進学実績の向上を図るため、教育力を向上させる。

主となる委員会・会議	主となる事務局
情報システム委員会	八王子事務室
二中高将来構想委員会	

2020年度 事業計画

【評価指標①】 教員の相互評価や研究授業・教員研修を充実させ、確固とした教員の育成システムを構築する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・教員の相互評価システムの構築を図り、「新しい学力観」に対応すべき授業改革を進める。	・8月の拡大職員会議などで、授業手法や授業改革に関する報告を各教員から行い、それをもとに各教科で授業に関する相互評価に取り組む。
・研修成果の共有化のシステム化を行う。	・共有の必要性のある研修成果については職員会議を通じて定期的に報告をする。また、研究論集は電子化する。
・研修参加をシステム化する。	・教務部を中心にセミナーや研究会の積極的な参加を今まで以上に促し、システム化する。
・教員の充実した研修時間を確保する。	・研修に参加可能な時間を確保できるよう時間割作成段階で可能な限り配慮を行う。

【評価指標②】 学校評価に関わる生徒アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にするを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にするを目指す。	・学期中の補習や長期休暇中のゼミ（ウィンターゼミを追加）をさらに充実させるとともに、学力向上をさらに促進するための外部業者導入を検討する。

【評価指標③】 学校評価に関わる保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にするを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にするを目指す。	・補習や長期休暇中のゼミの実践をさらに充実させるとともに、年度初めに保護者に向けて年間計画を周知してもらい、ゼミへの参加を促す。また、学力向上をさらに促進するための外部業者導入を検討する。

【評価指標④】 学校評価に関わる保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させてよかった」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にするを目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させてよかった」の設問について、「そう思う」以上を93%以上にするを目指す。	・学年から年3回の保護者会や月々の学年通信を通じて保護者への情報伝達を推進する。内容の工夫と改善を進める。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ-4. 進路

目標

共立女子第二中学校高等学校独自の進路システム「針路プログラム」を充実させ、大学進学等進路実績を踏まえた課題と対策について徹底した調査分析を行い、その結果に基づいて進路指導を充実させて、生徒一人ひとりに相応しい進路選択の機会を提供する。

主となる委員会・会議 進路指導部 教務部	主となる事務局 八王子事務室
----------------------------	-------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 特別進学コースにおける国公立大学および難関私立大学（早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学）の現役進学率を30%以上に、GMARCHおよび理工系・医療系への現役進学率を60%以上にすることを目標にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・特別進学コースにおける国公立大学および難関私立大学（早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学）の現役進学率を25%以上に、GMARCHおよび理工系・医療系への現役進学率を50%以上にすることを目標にする。	・外部一般受験を希望する生徒を直前まで支援するため、従来の長期休暇中のゼミにウィンターゼミを加える。外部講師ゼミ、アフター6、勉強合宿、模試（学校実施以外）情報の提供をより充実したものにしていく。

【評価指標②】 総合進学コースにおける共立女子大学・短期大学への現役進学率を60%に、外部大学への現役進学率を40%にすることを目標にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・総合進学コースから一般入試に臨む生徒を20%、最終進学先として共立女子大学への現役進学率を60%に、外部大学への現役進学率を40%にすることを目標にする。	・英語民間試験を中心に各種検定の受験を奨励し、一般入試にチャレンジする層の増加につなげる。

【評価指標③】 共立女子大学・短期大学の教学面での魅力を伝え、志望者をサポートする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・共立女子大学・短期大学の教学面での魅力を伝え、志望者をサポートする。また、高大連携プログラムの具体化を図る。	・共立女子大学個別説明会（6月）、共立女子大学講演会（7月）を従来通り実施する。オープンキャンパスへの積極的な参加を呼びかける。また、高大連携プログラムの検討を進める。

【評価指標④】 2021年度入試からの新基準に沿った新入試制度対策を実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・2021年度入試からの新基準に沿った新入試制度対策を実施する。	・進路に関する集会を通じて高校全学年に新入試制度（大学入学共通テスト、英語民間試験）の知識を浸透させる。

【評価指標⑤】 学校評価に関わる生徒アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを旨とする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・生徒アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを旨とする。すべての生徒が進路関連に関する質問ができる「進路相談コーナー」を開設する。	・今年度検討した「進路相談コーナー」（すべての生徒が進路関連に関する質問ができる）の開設を実現する。

【評価指標⑥】 学校評価に関わる保護者アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを旨とする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・保護者アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを旨とする。	・保護者会等を通じて進路面の不安を少しでも軽減できるように話をしていく。保護者に対して「開かれた進路指導部」を目指す。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ－5. 管理運営

目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的な企画立案、機動的な意思決定および執行をおこなう。

主となる委員会・会議 中高・二中高・幼稚園将来構想専門委員会	主となる事務局 八王子事務室
-----------------------------------	-------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 学園の経営課題や共立女子第二中学校高等学校の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある学校づくりに教職員一体となって取り組む。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・共立女子第二中学校高等学校における諸課題を解決するため、専任・講師・事務など全教職員が一体となって取り組む体制を維持する。	・年2回の拡大職員会議の実施を継続するとともに、1・2学期に行われる公開授業を軸に、より効果的な指導法の向上を目指す。

【評価指標②】 入学者数に則したカリキュラム改革を実施し、人件費の抑制に努める。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・新カリキュラムの完成年度において、より効率的な授業・クラス編成を行い、人件費の抑制に努める。	・入学者数と各教科の専任率をもとに効率的な人事配置を行う。

【評価指標③】 併設校間の教員の人事交流を促進する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・定年退職者の状況、生徒数、カリキュラム編成等を勘案し、教育の質を低下させることのない教員体制となるよう共立女子中学高等学校との人事交流を視野に入れ教員数の適正化を図る。	・生徒数、カリキュラム編成、専任率に則した教員数の検討・見直しを人事課との連携のもと実施する。

IV. 共立大日坂幼稚園

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

IV-1. 園児確保

目標

教育課程・教育指導の改善充実、入園者選考方法の改善等を通じて、志願者を増加させる。

主となる委員会・会議 入園者選考委員会	主となる事務局 —
------------------------	--------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 共立大日坂幼稚園について、入学定員を確保する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・入園定員を確保する。	・園児募集のための効果的な広報（幼稚園案内パンフレット作成、ホームページ上で定期的にトピックス更新）を行う。地域の未就園児のための活動（園庭開放を年12回、絵本の読み聞かせを年8回、体験入園を2回）を実施する。卒園生やその保護者も取り込んだ募集活動（説明見学会）を6回実施する。

【評価指標②】 定員に満たない年次は、積極的に転編入を受け入れることを目標にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・園児数が定員に満たない年次は積極的に転編入を受け入れる。	・編入者募集情報について、共立大日坂幼稚園ホームページや文京区私立幼稚園連合会ホームページ上に表す。

【評価指標③】 教育理念に共感する志願者を獲得するために効果的な広報計画を実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ホームページ、案内パンフレットを用いた効果的な広報、特に春から夏にかけての広報を充実させる。	・幼稚園案内パンフレットや広報紙を用いて教育について掲載し効果的に広報する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

IV-2. 教育の質

目標

新幼稚園教育要領を踏まえ園児が生きていくための力を育む。

主となる委員会・会議 幼稚園教員会	主となる事務局 —
----------------------	--------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】新幼稚園教育要領を踏まえ、「遊び」を通しての指導や就学前教育を取り入れた教育を徹底する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・学校評価アンケートを実施し、「教育方針や目標がしっかりしている」については、「そう思う」以上を100%、「教育方針にそって保育実践がなされている」については、「そう思う」以上を100%で維持していく。	・学校評価アンケートを実施し、その結果を保護者会や懇談会で報告し意見交換する。

【評価指標②】園児の活動・行事・生活それぞれについて幼稚園教育要領の中の「幼稚園教育の基本」が推進されているのかを検証する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・学校評価のアンケート、「教師は、遊びを大切に、発展させ、豊かな学びを促している」について、「そう思う」以上を98%以上で維持する。	・毎月発行する保護者宛の「月のお知らせ」の中で、カリキュラムに沿った「遊び」「活動」についての月目標を詳細に記載するとともに、実践した様子を園内掲示板にて報告する。

【評価指標③】教育活動との関係性を配慮しつつ、社会の動向、文京区の要請等を把握し、地域・社会との連携策を実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・地域の未就園児を取り込んだ園庭開放、絵本の読み聞かせの内容充実を図り、各活動の参加者数を2019年度より増加させる。	・未就園児活動の内容を検証し、絵本による読み聞かせには教員による活動を3回実施する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

IV-3. 教育力

目標

教育力を向上させて、園児一人ひとりの健やかな成長を促す。

主となる委員会・会議 園内研修検討委員会	主となる事務局 —
-------------------------	--------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】様々な領域を踏まえた計画的な園内研修システムや教員相互が評価し合う研究保育や学外での教員研修の充実を図る。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・園内研修を実施し、共立女子大学家政学部児童学科の教員と連携し教育力を向上させる。	・事例発表の園内研修を実施する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

IV-4. 保護者との連携・協力

目標

共立大日坂幼稚園で園児が心から安心して過ごすために、保護者と温かな関係を築き絆を深める。

主となる委員会・会議 幼稚園教員会	主となる事務局 —
----------------------	--------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】保護者懇談会や保護者アンケートを実施し、改善点や検討課題を保護者会で共有することを通じて、保護者からの高い支持の獲得を目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・学校評価の中で保護者アンケートの提出率を88%以上にする。	・学校評価の中で保護者アンケートの提出率を88%以上にする。

【評価指標②】個人面談やグループ面談などの場を設け、子育て支援に努める。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・子育てに関する情報を共有する。	・個人面談を年3回、新入園児については年4回実施する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

IV-5. 管理運営

目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営をおこなう。

主となる委員会・会議 中高・二中高・幼稚園将来構想専門委員会	主となる事務局 —
-----------------------------------	--------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】学園の経営課題や共立大日坂幼稚園の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある幼稚園づくりに教職員一体となって取り組む。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・教育の質の向上を目指し、多様な業務について適切な人事配置を検討する。	・教育の質の充実の観点に立ち、幼児教育無償化や預かり保育需要増加に伴う業務を担う人事配置について検証し始める。

V. 共立女子学園

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

V-1. 財政

目標

堅実な経営基盤を維持・向上させるために必要な財務戦略を立案・実行する。

主となる委員会・会議 財政運営会議	主となる事務局 財務課
----------------------	----------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 マスタープラン達成に必要な資源を確保し、財政的な支援を行う。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・新たな募金事業を制定する。	・寄付金における税制優遇措置として、税額控除制度を導入する。また、新たな募金制度は、使途を明確にした募金活動を行う。

【評価指標②】 適切に収入を確保し、必要な支出について検証し、収支均衡を目指した予算を策定する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ビジネス学部に係る収支を除く事業活動収支における収支差額比率0%以上の予算を策定する。	・ビジネス学部を含めた学納金収入予測を把握し、財政年次計画を策定する。また、収入規模に応じた適正な支出規模となる収支均衡予算を策定し、管理・遂行する。
・新しい教育活動に対応した収支構造にする。	・各学部・科などにおいて、教育活動の更なる充実に対応した学費について検証する。
・資産運用収入の具体的な方針を定める。	・安全かつ安定的な運用収入を目的に、保有資金の運用及び新規保有について、資金運用委員会において議論したうえで、方針を定める。
・クラウドファンディングの運用モデルを作成する。	・クラウドファンディング運用大学及び運用会社にヒアリングを行い、本学での適用状況を確認し、運用モデルを作成する。

【評価指標③】 学園の永続維持を果たすために、基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・決算において基本金組入前当年度収支差額をビジネス学部に係る収支を除き収入超過にする。	・評価指標②を確実に履行し、到達目標を達成する。

【評価指標④】 共立女子第二中学校高等学校の財政状況を踏まえて、収支改善方策を検討する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・予算縮減、入学者数増加に努めるとともに、収支改善を図る。	・支出超過改善のため、経費節減による支出のスリム化を行い、財政改善方策について、引き続き検討する。また、奨学金制度の活用により、入学者数増加を図る。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

V-2. 人事

目標

学園の発展や中期計画の達成のため、教職員がやり甲斐を持ちながら能力を生かし活躍できる人事施策を推進する。

主となる委員会・会議 学園将来基本構想委員会	主となる事務局 人事課
---------------------------	----------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】教職員が意欲と能力を十分発揮できるよう、財政状況を踏まえた新しい人事・給与制度を導入する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・事務局職員において、意欲・態度、発揮した行動などの能力評価と目標管理による業績評価による人事評価制度を本格運用する。	・本格運用と並行して、問題点を洗い出し、改善策を構ずる。
・事務局における人事評価制度と連動した処遇（昇給、賞与）制度について、2021年度の導入を目指す。	・人事評価制度と連動した処遇制度の設計を行う。また、職員を対象とした処遇制度の説明会を開催して周知を図る。
・時宜に応じた人事異動を行う。	・適切な人員配置やジョブローテーションを行うため、必要人員の把握と自己申告書を踏まえた人事異動計画を行う。

【評価指標②】多様な雇用・就労形態による人材活用、高い専門性を持つ専任職員の採用、働き方改革等、新たな職員の採用を含んだ職員採用計画を策定し、実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・新卒・既卒合わせて5人程度の採用を確保する。	・必要な人材を確保するための採用計画を策定する。
・職務限定職員の採用を行う。	・職務限定職員の適切な運用を行う。
・嘱託職員の採用を行う。	・嘱託職員の適切な運用を行う。

【評価指標③】資質向上と組織力強化のため、全専任教職員を対象としたFD・SD研修会等を実施し、全専任教職員の参加を目指す。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・全専任教職員を対象としたFD・SD研修会などを実施し、全専任教職員の参加を目指す。	・求める職員像に沿った必要な知識の理解を中心とした研修の他、職務遂行能力向上に資する自己研鑽の支援を行う。また、FD・SD研修会などを実施する。

【評価指標④】事務局の業務を業務委託の活用も含めて見直し・整理し、事務局組織の最適化を図る。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・事務局改編案に基づき、改編を実行に移す。	・新組織の業務分掌の検討と確認を行う。新職位の役割検討を行う。新組織における適正な人員配置の検討を行う。

【評価指標⑤】共立女子大学・短期大学の教育課程等を踏まえ、新しい基本教員数を定める。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・2019年度に確認した基本教員数に基づき管理し、かつ検証を行う。	・学長・副学長、各学部・科および関係部署と、教育活動と人件費との双方の観点から検証・検討を行う。

【評価指標⑥】共立女子大学・短期大学の学部・科の特性や助手の業務実態を踏まえて、助手の適正人数を定める。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・各学部別の助手枠を新たに検討する。	・業務の洗い出しをもとに、助手の業務・役割を再検討する。

【評価指標⑦】共立女子第二中学校高等学校の生徒数の減少を踏まえ、カリキュラム編成の見直しに則した教員数にし、共立女子中学高等学校との人事交流を促進する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・定年退職者の状況、生徒数、カリキュラム編成等を勘案し、教育の質を低下させることのない教員体制となるよう共立女子中学高等学校と共立女子第二中学校高等学校との人事交流を視野に入れ教員数の適正化を図る。	・生徒数、カリキュラム編成に則した教員数の見直しと、人事交流の必要性について両校長と検討する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

V-3. 施設設備

目標

教育研究の維持向上と学生・生徒・園児の安全を確保するため、計画的に施設設備を整備し、環境整備を図る。

主となる委員会・会議 学園キャンパス整備検討委員会	主となる事務局 管財課、情報センター事務室
------------------------------	--------------------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】神田一ツ橋キャンパスの施設設備について、長期的視点に立ったグランドデザインを策定する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・神田一ツ橋キャンパスグランドデザインの基本構想の元となる方針を決める。	・2019年度にまとめたキャンパスグランドデザインの原案をもとに、学園キャンパス整備検討委員会で検討する。

【評価指標②】神田一ツ橋キャンパスの各号館について、中期的視点に立って毎年の設備更新計画（情報インフラ含む）を策定し、適切に実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・ネットワーク遅延、障害発生を0件とする。	・神田キャンパスにおいて、ビジネス学部新設に伴い、無線LANを含むネットワークの増強を図る。
・2020年度の更新計画に基づき、ICT機器の更新、アクティブ・ラーニングに対応した机、椅子を更新する。	・2019年度の状態をふまえて施設整備更新計画を見直し、優先順位をつけて教育環境整備を行う。
・二酸化炭素の排出量削減第3計画期間（2020～2024年）の削減率に対応する計画を策定する。	・第2計画期間（-17%）から第3計画期間（-27%）への引き上げに対応するため、二酸化炭素の排出量削減だけでなく、排出量取引についても検討する。

【評価指標③】八王子キャンパスについて、必要不可欠な施設設備を確認し、今後の施設設備利用計画を策定する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・八王子キャンパスにおけるICT機器導入計画を策定する。	・八王子キャンパスにおける、タブレットを利用したICT機器導入計画について情報センター運営委員会で検討を行う。
・必要不可欠な施設設備の利用計画を策定する。	・必要な施設設備の維持・更新の内容と、使用範囲外となる施設設備の管理および代替施設の機能更新などについて検討する。

【評価指標④】八王子キャンパスの土地の売却処分を推進する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・八王子キャンパスの土地の売却処分を推進する。	・引き続きコンサルタント会社に自治体や仲業者への対応などを委託し、売却を進める。

【評価指標⑤】各研修センターについて、今後の利用計画を策定する。特に、軽井沢・河口湖の研修センターについては、利用実態を把握し利用率の向上を図る。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・軽井沢寮、河口湖寮の2021年度からの運営方針を策定する。	・他大学のセミナーハウスの実態や一般の研修施設についても検証し、教育研究の維持向上のための最善策を検討する。
・杉並苑を解体し、跡地利用について検討する。	・用地の有効活用又は売却について検討する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

V-4. 櫻友会・後援会・地域等との連携

目標

櫻友会・後援会・地域等との連携を通じて、各設置校の発展に寄与し、活動を支援する。

主となる委員会・会議 —	主となる事務局 総務課
-----------------	----------------

2020年度 事業計画

【評価指標①】 学園と櫻友会・後援会・地域等との連携方策の点検・評価を行い、組織・運営の充実を図る。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・櫻友会活動の充実のため連携を強化する。	・櫻友会とアンケート分析を共有し打合せ等の連携を強化する。
・地域との連携をさらに強化する。	・地域からの要請に迅速に対応してゆく。

【評価指標②】 櫻友会との連携により卒業生ニーズを把握し、卒業生の満足度を高める施策を実施する。

2020年度 到達目標	2020年度 活動概要
・アンケートを分析して櫻友会と共有し櫻友会の事業活動の協力を する。	・櫻友会の活動実施に向け櫻友会との連携を強化する。
・ホームページに卒業生窓口を設置する。	・ホームページに卒業生窓口の策定をする。

2. 2020 年度予算の概要

(1) 2020 年度予算編成方針

本学園が、学園ビジョン、第二期中期計画を踏まえた諸活動を推進するとともに、強固な財政基盤を再構築していくため、2020 年度の予算編成は以下の基本方針に基づき策定する。

<基本方針>

- ビジネス学部に係る収支を除外して、当該年度の学園に帰属する収入規模（学生生徒等納付金、寄付金、補助金、資産運用収入他）に応じた適正な支出規模となる収支均衡予算を策定する。
- 全ての支出行為の合理性を検証し、支出を抜本的に見直し、経費節減を徹底する。
- 人件費及び施設設備費等の固定費削減等の見直しを図る。

第二期中期計画の目標を達成するため、2022 年度までに事業活動収支の経常収支差額比率は5%とすることを目指している。2020 年度はビジネス学部が設置されるが、完成年度までは段階的に増えていく学生数に応じた学費収入となるため、事業活動収支の経常収支差額において、ビジネス学部に係る収支を除外して収支均衡（経常収支差額比率0%以上）となる予算を編成した。

以上を踏まえた 2020 年度予算の概要は次のとおりである。

(2) 資金収支予算（表 1）

【収入】学生生徒等納入金収入は、共立女子大学・共立女子短期大学の入学定員の管理により前年度予算額より約 6,700 万円増の約 82 億 9,100 万円を計上した。また、手数料収入は、入学検定料収入については近年の各設置校の志願者数増を反映して前年度予算額より約 4,500 万円増の約 3 億 3,200 万円を計上した。補助金の収入のうち、経常費補助金については、各設置校の予測学生生徒数をもとに過年度の補助金実績額を踏まえ前年度予算額より約 4,800 万円減で計上している。それ以外の収入については、近年の実績額を見込み計上した。

その他、特定資産の取崩収入約 8 億 5,300 万円と前年度繰越支払資金約 29 億 5,200 万円を加え、収入の部合計を約 149 億 3,900 万円として計上した。

【支出】人件費支出は、前年度の退職者と今年度の採用予定者を加味して、前年度予算額より約 4,600 万円増の約 63 億 2,200 万円を計上した。それ以外の支出では、経常的な活動に関わる経費の他、中期計画予算、八王子キャンパス法面補修工事、神田本館他各所の修繕および設備更新工事等の事業計画実施に伴い、教育研究経費支出は約 28 億 2,600 万円、管理経費支出は約 6 億 4,300 万円、施設関係支出は約 1 億 1,300 万円、設備関係支出は約 1 億 9,300 万円を見込んでいる。

その他、特定資産への繰入支出は 16 億円、翌年度繰越支払資金約 30 億 4,400 万円を計上した。

(3) 事業活動収支予算（表 2）

事業活動収支については、教育活動収支と教育活動外収支を合わせた経常収支差額が、約 3 億 7,300 万円の支出超過、経常収支差額比率 -3.5%となる。教育活動外収支区分の教育活動外収支差額は、約 6,100 万円の収入超過となる。また、特別収支区分の特別収支差額は、約 5,000 万円の支出超過となる。

以上の他予備費 1 億円を加え、基本金組入前当年度収支差額は約 5 億 2,400 万円の支出超過となり、基本金組入額約 2 億 7,200 万円を第 1 号基本金に組み入れ、当年度収支差額は約 7 億 9,700 万円の支出超過となる。

(4) 中期計画予算（表 3）

第二期中期計画に掲げられた重点施策（マスタープラン）達成のための実行計画（アクションプラン）は、所管する各部署、委員会で計画の適切性、予算および資源の合理性等を検討し、各個別計画予算として計上した。

表1. 資金収支予算総括表

(単位：千円)

収入の部			
科目	2020年度	2019年度	増減
学生生徒等納付金収入	8,291,243	8,224,173	67,070
手数料収入	331,854	286,568	45,286
寄付金収入	74,250	95,650	△ 21,400
補助金収入	1,603,185	1,775,961	△ 172,777
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	19,340	22,760	△ 3,420
受取利息・配当金収入	65,656	140,247	△ 74,591
雑収入	205,011	344,422	△ 139,411
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,525,795	1,385,760	140,035
その他の収入	1,334,424	1,347,421	△ 12,998
資金収入調整勘定	△ 1,464,003	△ 1,767,235	303,232
前年度繰越支払資金	2,952,446	3,598,422	△ 645,975
収入の部合計	14,939,201	15,454,149	△ 514,949

支出の部			
科目	2020年度	2019年度	増減
人件費支出	6,321,668	6,275,871	45,797
教育研究経費支出	2,825,996	2,499,865	326,131
管理経費支出	643,158	639,085	4,074
借入金等利息支出	5,000	6,666	△ 1,667
借入金等返済支出	83,330	83,330	0
施設関係支出	113,000	432,000	△ 319,000
設備関係支出	193,326	162,272	31,054
資産運用支出	1,600,000	2,300,000	△ 700,000
その他の支出	115,750	107,497	8,253
〔予備費〕	100,000	100,000	0
資金支出調整勘定	△ 105,762	△ 104,883	△ 879
翌年度繰越支払資金	3,043,735	2,952,446	91,288
支出の部合計	14,939,201	15,454,149	△ 514,949

※2020年3月時点のものであり、その後補正によって変更が生じる場合がある。

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

表2. 事業活動収支予算総括表

(単位：千円)

		科 目	2020年度	2019年度	増減	
教育活動収支	収入の活動	学生生徒等納付金	8,291,243	8,224,173	67,070	
		手数料	331,854	286,568	45,286	
		寄付金	74,250	95,650	△ 21,400	
		経常費等補助金	1,603,185	1,651,972	△ 48,788	
		付随事業収入	19,340	22,760	△ 3,420	
		雑収入	205,011	344,422	△ 139,411	
		教育活動収入計	10,524,882	10,625,545	△ 100,663	
			科 目	2020年度	2019年度	増減
	支出の活動	人件費	6,155,305	6,242,342	△ 87,037	
		教育研究経費	4,130,191	3,856,375	273,816	
		管理経費	673,478	669,585	3,894	
		徴収不能額等	0	0	0	
		教育活動支出計	10,958,974	10,768,302	190,672	
			教育活動収支差額	△ 434,092	△ 142,757	△ 291,335
教育活動外収支	収入の活動	科 目	2020年度	2019年度	増減	
		受取利息・配当金	65,656	140,247	△ 74,591	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	65,656	140,247	△ 74,591	
	支出の活動	科 目	2020年度	2019年度	増減	
		借入金等利息	5,000	6,666	△ 1,667	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	5,000	6,666	△ 1,667	
			教育活動外収支差額	60,656	133,581	△ 72,924
			経常収支差額	△ 373,436	△ 9,176	△ 364,259
特別収支	収入の活動	科 目	2020年度	2019年度	増減	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	6,200	130,189	△ 123,989	
		特別収入計	6,200	130,189	△ 123,989	
	支出の活動	科 目	2020年度	2019年度	増減	
		資産処分差額	56,900	16,000	40,900	
		その他の特別支出	0	0	0	
	特別支出計	56,900	16,000	40,900		
		特別収支差額	△ 50,700	114,189	△ 164,889	
		[予備費]	100,000	100,000	0	
		基本金組入前当年度収支差額	△ 524,136	5,013	△ 529,148	
		基本金組入額合計	△ 272,405	△ 577,638	305,233	
		当年度収支差額	△ 796,541	△ 572,625	△ 223,915	
		前年度繰越収支差額	△ 5,273,274	△ 4,700,649	△ 572,625	
		基本金取崩額	0	0	0	
		翌年度繰越収支差額	△ 6,069,814	△ 5,273,274	△ 796,541	
(参考)						
		事業活動収入計	10,596,738	10,895,981	△ 299,243	
		事業活動支出計	11,120,874	10,890,968	229,905	

※2020年3月時点のものであり、その後補正によって変更が生じる場合がある。

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

表3. 中期計画予算

(単位：千円)

部門等	予算配分項目	事業内容	予算額
大学・短期大学	I-1. 学生確保	志願者数・受験者数増加へ向けたオープンキャンパスの充実	1,000
		志願者数・受験者数増加へ向けた広報活動の充実	500
	I-2. 教育の質	教養教育課程の課題解決型アクティブラーニング授業の充実	3,300
		国際学部GSEプログラムの広報活動の充実	5,360
		国際学部GSEプログラム充実のためのTOEIC Writing試験の導入	444
		国際学部GSEプログラム充実のためのTAの充実	336
		ビジネス学部開設関連行事の開催	3,000
	I-3. 学生生活	公認学生団体の活動支援の充実	11,000
		留学生支援の充実	6,500
		課外行事の実施	3,600
		卒業生との連携の充実、ホームカミング日の開催	700
	I-4. 学修支援・授業支援	教育推進組織の構築と運営サポートの充実	1,000
	I-5. 就業力	自己理解支援ツールによるキャリア支援の充実	8,815
卒業生に対するアンケート調査の実施		1,060	
I-6. 地域連携	子育てひろばコーディネータの配置	720	
I-7. 教学マネジメント	BIツール導入による教学マネジメントの充実	2,475	
中学高等学校	II-1. 生徒確保	中学インタラクティブ入試の充実	650
		志願者数・受験者数増加へ向けた広報活動の充実	1,355
	II-2. 教育の質	ICT教育支援員の充実	15,840
		教育用グループウェアの充実	3,871
		施設設備の整備、無線LANの構築	2,200
		各教科指導力の向上、教員ルーブリック研修の実施	330
		企業インターンの充実	275
		英語ライティング、スピーキング指導の充実	200
	II-4. 進路	アクティブラーニング教育の支援充実	77
		進学実績向上への補習ツールの利用	2,200
	進路指導充実に向けたチューター増員の増員	245	
第二中学高等学校	III-2. 教育の質	英語教育充実のためのMLSドラマソッドの充実	600
		英語教育充実のための教員研修の実施	360
学園	V-1. 財政	募金活動の充実	2,600
	V-2. 人事	人事・給与制度の構築	13,500
		採用関係の求人広告等の充実	620
	職員研修の充実	600	
			95,332

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

女性の自立と自活
共立女子学園



学校法人 **共立女子学園**
KYORITSU WOMEN'S EDUCATIONAL INSTITUTION

〒101-8437
東京都千代田区一ツ橋 2-2-1